

教 科	国語	科 目	論理国語	学年・類型	2年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
-----	----	-----	------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	筑摩書房「論理国語」
副教材等	筑摩書房「ちくま文学講読 上級編」 桐原書房「頻出入試漢字コア2800 改訂版」

学習目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。</p> <p>(2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</p>
授業の進め方・学習方法	<p>・段落相互の関係をつかみ、論理の展開や要旨を的確に捉えていく。また、具体例とその抽象化・一般化の手法を学ぶ。新鮮な視点と柔軟な思考で物事を捉え、物事を根本から考える姿勢を学ぶ。</p> <p>・単元の順序・教材の精選は適宜状況に応じて行う。</p>

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評価規準
1学期	アイオワの玉葱	①ことばの性質とともに、日常生活で感じた小さな違和感や気づきに問題を見つけ、考えを深めていく筆者の思考のありかたに注目する。 ②本文中で、言語と文化に関する筆者のどのような考えが表れているかを考える。 ③日本語のことばや慣用句と同じ意味を持つ表現をさまざまな言語から探し、表現の仕方の違いや、その印象について話し合う。 ④解釈に関する筆者の考え方を学ぶ。 ⑤例示を効果的に使った文章展開に注目する。 ⑥映画を見て、一見意味のなさそうな映像に「奇妙な抵抗感」を覚えたことはなかったか、それぞれの経験話し合う。 ⑦筆者の主張を踏まえて、メディアで取り上げられているニュースについて関心のあるものを選び、どのような「解釈」がされているか、考えてみる。	【知識・技能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。
	物語るという欲望	①本文を読んで「前提」を見直し、情報と情報との関係を理解する。 ②特定の主張や価値観を前提にした表現が用いられている事例を身の回りから探し、発表する。 ③自分自身の言動の中に、気づかないうちに「当然の前提」としてしまっていることがないか、振り返ってまとめる。	【知識・技能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。
	本当は怖い「前提」の話	①「近代」が生み出した思考や世界観について本文を読んで理解する。 ②「近代」において「主体」と「客体」として位置づけられたものにはどのようなものがあるか、またその区分はどのような問題を作り出したか、関心のある領域について調べ、レポートにまとめる。 ③近代の問題について、解決するにはどうすべきか考え、まとめる。	【知識・技能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。
2学期	人新世における人間	①本文を読んで、科学者たちが提唱した「人新世」という新しい語が、社会にどのような視点を提供したのか、考える。 ②事典などを用いて「地層」に基づく年代区分について調べ、まとめる。 ③もし自分が「未来の地質学者」ならば、21世紀初めの地球環境をめぐる議論をどう位置づけ、自分なりに想像してまとめる。 ④「事実」に対してどのような態度を持つことが必要か、本文を踏まえてまとめる。 ⑤なぜ「新聞記者」たちは事実とは異なる記事を出してしまったのか。取材する側の立場になって、その理由を考える。 ⑥思い込みが多くの人々を誤った認識に駆り立ててしまった具体例について調べ、その内容を発表してみよう。	【知識・技能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。
	日本の社会は農業社会か	①本文を読んで、引用の中の語句を解釈しながら目説を組み立てる論法に留意する。 ②本文を読んで、筆者の考え方を理解し、現代社会の問題点に光を当てる視座の見だし方を学ぶ。 ③貧困の自己責任論と筆者の主張が相容れないのはなぜか、200字以内でまとめる。 ④貧困問題を抱える社会にとって豊かさは何か、本文の議論を踏まえた上で話し合う。	【知識・技能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。
	貧困は自己責任なのか	①本文を読んで、既存の関係を相対化するために視点を反転させる思考のあり方を学ぶ。 ②桜を扱った和歌や文学作品について調べ、その中で「桜」がどのように描かれているか、まとめる。	【知識・技能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。
3学期	トリアージ社会	①本文を読んで、ことばの変遷を追うことによって社会の実像が見えてくるということ学ぶ。 ②治療において「トリアージ」が導入されることについてどのように考えるか、自分の意見をまとめる。 ③本文をもとに、自分は人間をどのような存在だと考えるか、自分の考えをまとめる。	【知識・技能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。
	「である」ことと「する」こと	①本文を通して、ことばの意味を吟味し、この社会の原理や原則を形づくることばが、どんな思想や行動に支えられているかという分析を突き詰める文章の手法を学ぶ。 ②自分たちの生活の中にある「である」価値と「する」価値について、具体例を挙げて話し合う。 ③夏目漱石「現代日本の開化」と読み比べ、二人の筆者の主張の共通点をまとめたうえで、それに対する自分の考えを書く。	【知識・技能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。

成績評価方法	<p>1 定期考査においては、知識、技能、思考、判断、表現を評価する。</p> <p>2 学習態度などの平常点</p> <p>(1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度</p> <p>(2) 授業時などの学習過程で、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点、及び伸長の状況などを評価する。</p> <p>(3) 問題集やレポートの提出状況・課題テスト・小テストなどを評価する。</p> <p>以上の全てを対象に、総合的に判断する。</p>	
--------	--	--

教 科	国語	科 目	古典探究	学年・類型	2年文系	履修形態	全員履修	授業時数	3単位
-----	----	-----	------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	数研出版(古探709)『古典探究 古文編』／数研出版(古探710)『古典探究 漢文編』
副教材等	数研出版『読解を大切にする 体系古典文法 九訂版』／京都書房『漢文学習必携 三訂増補版』／いいずな書店『古文単語330三訂版』

学習目標	1. 「言語文化」の学習に続き、様々な教材を取り上げ、幅広く学習することで、古典の内容を的確に捉え、理解する力を高める。 2. 古典に用いられている語句の意味や用法、表現上の特色や構造への理解、文章に表れた思想や感情の読み取りなどを通して、国語についての認識を高め、言語感覚を養う。 3. 優れた表現に親しみ、特に日本と中国の文化の関係を考える。 4. 古典に表れたその時代の思想や感情に触れ、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにするとともに、古典に親しむ態度を身に付ける。
授業の進め方,学習方法	① 古典としての古文を読む能力を養うために、文法の力をつけ、語彙を増やす基礎的な作業を継続的、反復的に行う。 ② 漢文については、句法の力をつけ、個々の漢字の意味の広がり、熟語の正確な理解、故事成語、四字熟語などの知識を確実に積み上げる。 ③ 単なる解釈にとどまらず、総合的に古典の世界をつかむために、古典の理解に欠かせない歴史的背景や文化、制度についての知識を強化する。 ④ 文化の継承という広い展望に立ち、現代と伝統との結びつきを意識することで、古典に親しみ、学ぶことの意義を深く自覚する。 ⑤ 2・3年の2年間の学習に教材を配分するため、本年度の教材の精選・単元の順序変更は適宜状況に応じて行う。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評価規準
1学期	古文 説 話 『沙石集』 兼盛と忠見 歌 物 語 『伊勢物語』 初冠	・説話のおもしろさを味わい、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。 ・古文の読みに慣れ、古典に親しむ。・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を正しく理解し、把握する。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・それぞれの故事成語の本来の意味を理解し、現代に於ける意味や用法を習得する。 ・故事成語を生んだ文を原文で読むことによって、中国古典に由来する語句が現代生活に多く用いられていることを再認識し、日本文化と中国文化との関係について考える。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。
	古文 日 記 『更科日記』 東路の道の果て 歴 史 物 語 『大鏡』 花山院の出家 漢 文 故 事 『江南橋為江北枳』	・物語を読み、古典に対する親しみを深める。 ・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・長文の漢文に読み慣れることによって、文章の構成や展開を正しく理解する。 ・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・『』の表現技法や修辞、文体などの特色を理解し、その巧みな描写、簡潔な語調などの優れた表現に親しむ。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 登場人物の行動とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、学習課題に沿ってまとめようとしている。
2学期	漢文 史 伝 『鴻門之会』 『剣舞』 『頭髮上指す』 『四面楚歌』	・長文の漢文に読み慣れることによって、文章の構成や展開を正しく理解する。 ・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・『史記』の表現技法や修辞、文体などの特色を理解し、その巧みな描写、簡潔な語調などの優れた表現に親しむ。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。
	古文 物 語 『源氏物語』 光源氏誕生 小柴垣のもと	・物語のおもしろさを読み味わう。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・和歌や歌謡の特色を理解し、その主要な作品を味読する。 ・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。
3学期	古文 随 筆 『方丈記』 ゆく河の流れ 『徒然草』 九月二十日のころ	・文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・文章の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。 ・作者や作中人物の、人間・社会・自然などに対する様々な考えや感情を的確に読み取ることによって、自らのものの見方、感じ方を豊かにする。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。
	漢文 思 想 『孟子』 不忍人之心 『韓非子』 侵官之害	・古代中国の思想家たちの、人間・社会・自然などに対する様々な考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方を豊かにする。 ・古代中国を代表する思想書を読むことによって、日本文化との関係について考える。	

成績評価方法	1 定期考查においては、知識、技能、思考、判断、表現を評価する。 2 学習態度などの平常点 (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点、及び伸長の状況などを評価する。 (3) 問題集やレポートの提出状況・課題テスト・小テストなどを評価する。 以上の全てを対象に、総合的に判断する。
--------	---

教 科	国語	科 目	古典探究	学年・類型	2年理系	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
-----	----	-----	------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	数研出版(古探709)『古典探究 古文編』／数研出版(古探710)『古典探究 漢文編』								
副教材等	数研出版『読解を大切にする 体系古典文法 九訂版』／京都書房『漢文学習必携 三訂増補版』／いいずな書店『古文単語330三訂版』								

学習目標	1. 「言語文化」の学習に続き、様々な教材を取り上げ、幅広く学習することで、古典の内容を的確に捉え、理解する力を高める。 2. 古典に用いられている語句の意味や用法、表現上の特色や構造への理解、文章に表れた思想や感情の読み取りなどを通して、国語についての認識を高め、言語感覚を養う。 3. 優れた表現に親しみ、特に日本と中国の文化の関係を考える。 4. 古典に表れたその時代の思想や感情に触れ、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにするとともに、古典に親しむ態度を身に付ける。								
授業の進め方,学習方法	① 古典としての古文を読む能力を養うために、文法の力をつけ、語彙を増やす基礎的な作業を継続的、反復的に行う。 ② 漢文については、句法の力をつけ、個々の漢字の意味の広がり、熟語の正確な理解、故事成語、四字熟語などの知識を確実に積み上げる。 ③ 単なる解釈にとどまらず、総合的に古典の世界をつかむために、古典の理解に欠かせない歴史的背景や文化、制度についての知識を強化する。 ④ 文化の継承という広い展望に立ち、現代と伝統との結びつきを意識することで、古典に親しみ、学ぶことの意義を深く自覚する。 ⑤ 2・3年の2年間の学習に教材を配分するため、本年度の教材の精選・単元の順序変更は適宜状況に応じて行う。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評価規準
1学期	古文 説 話 『沙石集』 兼盛と忠見 歌 物 語 『伊勢物語』 初冠	・説話のおもしろさを味わい、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。 ・古文の読みに慣れ、古典に親しむ。・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を正しく理解し、把握する。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・それぞれの故事成語の本来の意味を理解し、現代に於ける意味や用法を習得する。 ・故事成語を生んだ文を原文で読むことによって、中国古典に由来する語句が現代生活に多く用いられていることを再認識し、日本文化と中国文化との関係について考える。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。
	古文 日 記 『更科日記』 東路の道の果て 歴 史 物 語 『大鏡』 花山院の出家 漢 文 故 事 『江南橋為江北枳』	・物語を読み、古典に対する親しみを深める。 ・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・長文の漢文に読み慣れることによって、文章の構成や展開を正しく理解する。 ・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・『』の表現技法や修辞、文体などの特色を理解し、その巧みな描写、簡潔な語調などの優れた表現に親しむ。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 登場人物の行動とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、学習課題に沿ってまとめようとしている。
2学期	漢文 史 伝 『鴻門之会』 『剣舞』 『頭髮上指す』 『四面楚歌』	・長文の漢文に読み慣れることによって、文章の構成や展開を正しく理解する。 ・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・『史記』の表現技法や修辞、文体などの特色を理解し、その巧みな描写、簡潔な語調などの優れた表現に親しむ。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。
	古文 物 語 『源氏物語』 光源氏誕生 小柴垣のもと	・物語のおもしろさを読み味わう。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・和歌や歌謡の特色を理解し、その主要な作品を味読する。 ・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。
3学期	古文 随 筆 『方丈記』 ゆく河の流れ 『徒然草』 九月二十日のころ	・文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・文章の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。 ・作者や作中人物の、人間・社会・自然などに対する様々な考えや感情を的確に読み取ることによって、自らのものの見方、感じ方を豊かにする。	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。
	漢文 思 想 『孟子』 不忍人之心 『韓非子』 侵官之害	・古代中国の思想家たちの、人間・社会・自然などに対する様々な考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方を豊かにする。 ・古代中国を代表する思想書を読むことによって、日本文化との関係について考える。	

成績評価方法	1 定期考查においては、知識、技能、思考、判断、表現を評価する。 2 学習態度などの平常点 (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点、及び伸長の状況などを評価する。 (3) 問題集やレポートの提出状況・課題テスト・小テストなどを評価する。 以上の全てを対象に、総合的に判断する。
--------	---

教 科	地歴・公民	科 目	歴史総合	学年・類型	2年理系	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
-----	-------	-----	------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	明解歴史総合(帝国書院)
副教材等	明解歴史総合図説 シンフォニア 最新版(帝国書院) 明解歴史総合ノート(帝国書院)

学習目標	近代以降の日本と世界の歴史を相互に関連付けながら学習することで、現代につながる歴史についての知識を身に付け、総合的に歴史や社会について考えることのできる技能を培う。 過去から現在に至る歴史的経緯や日本および各国を形成してきた文化的背景を理解することで、現在の社会や未来の世界について深く考察できる歴史的思考力、現在や未来をよりよく生きるために役立つ判断力、それらを適切に自身の意見として文章や言葉にする表現力を養う。 語句の暗記に終始するのではなく、歴史的事象を題材に積極的な言語活動を促すことで、歴史に対する興味・関心を持たせ、主体的に学習に向かう態度を身に付けさせる。
授業の進め方,学習方法	理系クラスは、日本史と世界史の分野を総合的・横断的に学習できるように授業を展開する。授業内容は、教科書に則り、歴史的事象や歴史の流れを講義することを中心に進めていく。また適宜、資料集を用いて、地図や文書資料や絵画・写真などを確認し、近現代の歴史を総合的に学習できるように読取作業や言語活動をおこなわせる。授業内容に応じて、学習内容を復習したり学習内容を応用するためにワークノートを活用させて、課題や演習をおこなう。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評価規準
1学期	第1部 1章 歴史と私たち 2章 歴史の特質と資料 第2部 序章 近代化への問い 1章 江戸時代の日本と結び付く世界 2章 欧米諸国における近代化	1.1. 歴史総合を学習する意義を確認する。 1.2. 歴史総合を学習する方法を確認する。 2.1. 江戸幕府と世界のつながり、江戸時代の社会、アジアとヨーロッパの貿易について学習する。【日】 2.2. イギリスの市民革命、アメリカの独立、フランス革命、産業革命という4つの変革を軸にヨーロッパの近代化について学習する。【世】	①=知識・技能②=思考・判断・表現③主体的に学習に取り組む態度 ①江戸時代の社会、アジアと欧米諸国との貿易とその影響、市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯について資料を読み取り、理解している。 ②「大航海時代」から「世界の一体化」へ至る交易の意義と地域の変容、市民革命および産業革命の経緯などから諸改革の意義と現代社会との関わりについて考察し、みずからの言葉で表現している。 ③18世紀の世界交易、市民革命や産業革命が、現代に与えた影響と課題について追究しようとしている。
	第2部 3章 近代化の進展と国民国家形成 4章 アジア諸国の動揺と日本の開国 5章 近代化が進む日本と東アジア	2.3. 自由主義・民族主義の台頭、イタリア・ドイツの統一、ロシアによる 東方問題と近代化を通じて、国民国家と帝国主義の形成について学習する。【世】 2.3. アメリカの動向と第二次産業革命、ヨーロッパ中心の帝国主義による世界の一体化について学習する。【世】 2.4. ヨーロッパの進出によるオスマン帝国・エジプト・イランの変化、ヨーロッパによる東南アジア・インドの植民地化について学習する。【世】 2.4. ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争、黒船来航と江戸幕府の滅亡について学習する。【日】 2.5. 明治維新による日本の近代化について学習する。【日】	①国民国家の展開と帝国主義による世界分割、欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容と明治維新とその後の日本の変化について資料を読み取り、理解している。 ②国民国家の形成・発展による対外戦争や差別・抑圧、帝国主義が人類に与えた変化、アジアにおける「西洋の衝撃」の歴史的意義について考察し、みずからの言葉で表現している。 ③国民国家や帝国主義政策、欧米諸国による進出による明治維新も含めたアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
2学期	第2部 5章 近代化が進む日本と東アジア 第3部 序章 国際秩序の変化や大衆化への問い 1章 第一次世界大戦と日本の対応 2章 国際協調と大衆社会の広が	2.5. 日清戦争、日露戦争について学習する。【日】 2.5. 日露戦争の影響(韓国併合、民族運動の激化、清朝の滅亡)について学習する。【日】 3.1. 第一次世界大戦、ロシア革命について学習する。【世】 3.2. ヴェルサイユ体制、東アジア・トルコと中東・インドの民族運動、ヨーロッパの復興と大衆社会の出現について学習する。【世】 3.2. 日本における大衆社会(大正デモクラシー)について学習する。【日】	①国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序について、資料を読み取り、理解している。 ②第一次世界大戦の情勢と新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し、みずからの言葉で表現している。日清戦争・日露戦争に伴う日本とアジアと欧米諸国の関係の変化と、辛亥革命など各国の変化の要因を考察し、表現している。 ③国際秩序と大衆社会の到来、現代社会について追究しようとしている。
	第3部 3章 日本の行方と第二次世界大戦 4章 再出発する世界と日本	3.3. 世界恐慌、ファシズムの台頭について学習する。【世】 3.3. 満州事変、日中戦争について学習する。【日】 3.3. 第二次世界大戦について学習する。【世】・【日】 3.4. 戦後の国際秩序、東西冷戦、戦後のアジア諸国の動向について学習する。【世】 3.4. 戦後日本の民主化と独立について学習する。【日】	①世界恐慌から第二次世界大戦の終戦、日本の戦後に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら、資料を読み取り、理解している。 ②なぜファシズム体制が形成され、大衆がなぜ戦争に協力していったのか、また戦後はどのような動向になったのかを考察し、みずからの言葉で表現している。 ③世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力、戦後の復興や国際連合の結成が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
3学期	第4部 序章 グローバル化への問い 1章 冷戦で揺れる世界と日本 2章 多極化する世界 3章 グローバル化のなかの世界と日本	4.1. 米ソ対立(冷戦)の緊張と緩和について学習する。【世】 4.1. 冷戦下の日本(55年体制、安保闘争、高度経済成長)について学習する。【日】 4.1. 冷戦下での第三勢力(アジア・アフリカ諸国)の形成と脱植民地化、パレスチナ問題(中東戦争)について学習する。【世】 4.2. ベトナム戦争、アメリカの公民権運動について学習する。【世】 4.2. 1970・80年代の日本の経済・外交について学習する。【日】 4.2. アジア・南米の情勢、イスラーム革命、冷戦の終結とソ連の崩壊について学習する【世】 4.3. 冷戦後の世界と超大国アメリカと中東情勢について学習する。【世】 4.3. 国際環境の変化と日本について学習する。【日】 4.3. グローバル化による国際社会の変容について学習する。【世】・【日】	①冷戦下の緊張と緩和の経緯、日本の高度経済成長と外交、脱植民地化を目指す動き、冷戦後の世界について、資料を読み取り、理解している。 ②冷戦下の緊張と緩和の経緯、日本の高度経済成長と外交、脱植民地化を目指す動き、冷戦後の世界について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、みずからの言葉で表現している。 ③冷戦下の緊張と緩和の経緯、日本の高度経済成長と外交、脱植民地化を目指す動き、冷戦後の世界について、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。

成績評価方法	定期考査の点数、課題の提出状況・提出内容、出席状況、授業態度・授業内での活動、を総合的に勘案して、観点別に評価を行う。 観点別評価の内容は、①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の三項目に分け、各学習内容にあわせたそれぞれの評価規準を設ける。
--------	---

教 科	地歴・公民	科 目	歴史総合A	学年・類型	2年文系	履修形態	選択履修	授業時数	2単位
使用教科書	明解歴史総合（帝国書院）								
副教材等	グローバルワイド最新世界史図表（第一学習社）、世界史10分テスト（山川出版社）								
学習目標	20世紀を中心に学習する。特に現代と直結する戦後に重点を置き、民族・文化・人物などに焦点をすえ、現代理解を深める。								
授業の進め方、学習方法	文系クラスでは、日本史分野と世界史分野で授業を分けることで、詳細で高度な歴史学習を促す授業を展開する。授業内容は、教科書に則って歴史的事象や歴史の流れを講義することを中心に進めていく。また適宜、日本史・世界史それぞれ専門性の高い資料集を用いて、地図や文書資料や絵画・写真などを確認し、より歴史に対する造詣を深められるように読取作業や言語活動をおこなわせる。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評価規準
1学期	帝国主義と世界の一体化	講義： ・世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン・ムガル・清帝国および日本などアジア諸国の動揺と改革、列強の経済力と軍事力による世界の分割・支配、列強の支配を受けた諸国での民族解放や独立を目指すナショナリズム運動に関する資料を活用し、基本的知識を身につける。 ・帝国主義時代の世界の一体化と社会の変容について追究し、ヨーロッパ諸国によるアジア・アフリカの植民地化をめぐる競合とアジア・アフリカの対応の歴史的意義を考察する。 ・日本の明治維新とその後の近代化の動きがアジア諸国に与えた影響について考察する。	①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 ①19世紀末の世界の一体化について、帝国主義政策による列強諸国の植民地獲得競争に着目して理解している。 ②帝国主義政策や移民による大規模な人口移動が、アジアとアフリカに何をもたらしたのかについて考察し、表現している。江戸時代の社会、アジアと欧米諸国との貿易とその影響、市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯について資料を読み取り、自分の言葉で表現できる。 ③帝国主義政策、欧米諸国による進出による明治維新も含めたアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
	第一次世界大戦	講義： ・ロシア革命とソ連の成立について、政治的・経済的・思想的な影響について考察する。 ・第一次世界大戦の原因・性格・影響や、ロシア革命の展開、国際連盟の役割、ヴェルサイユ・ワシントン体制の特徴、欧米諸国とソ連の動向、アジア諸国の民族運動の高揚に関する資料を活用し、基本的知識を身につける。	①国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について、資料を読み取り、理解している。 ②第一次世界大戦の総力戦体制下において、列強の戦闘員・列強の非戦闘員・植民地や従属地域の人々がそれぞれどのような目的で戦争に協力したのかについて考察し、みずからの言葉で表現している。 ③勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
2学期	ファシズムの台頭と第二次世界大戦とその影響	講義： ・ファシズムが台頭する背景について、第一次世界大戦後の問題点にも着目し、多角的に考察する。 ・ファシズムの特徴について理解する。 ・第二次世界大戦の性格について、現在まで残る諸問題にも着目しながら考察する。 ・世界恐慌の原因と影響、各国の恐慌対策、ファシズム台頭の背景と経過、第二次世界大戦の原因や性格に関する資料を活用し、基本的知識を身につける。	①世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら、資料を読み取り、理解している。 ②ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、大衆がなぜ戦争に協力していったのかを考察し、みずからの言葉で表現している。 ③世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
	冷戦の展開	講義： ・冷戦の背景について、第二次世界大戦の国際関係も復習しながら、多角的に考察する。 ・米ソ両陣営の対立が世界各地に与えた影響について多角的に考察する。	①冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら資料を読み取り、理解している。 ②国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際秩序を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかについて考察し、みずからの言葉で表現している。 ③大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
3学期	現代世界	講義・発表： ・冷戦構造の解消、社会主義の崩壊など転換期を迎えたが、現代世界は平和を達成することができず、現在も紛争や内戦などが世界各地で続いていることを理解する。	①冷戦終結の過程とグローバル化の特質について、資料を読み取り、理解している。 ②グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し、その特質や問題点をみずからの言葉で表現している。 ③冷戦の終結とグローバル化の進展が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。

成績評価方法	定期考査の点数、課題の提出状況・提出内容、出席状況、授業態度・授業内での活動、を総合的に勘案して、観点別に評価を行う。 観点別評価の内容は、①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の三項目に分け、各学習内容にあわせたそれぞれの評価規準を設ける。
--------	---

教 科	地歴・公民	科 目	歴史総合B	学年・類型	2年文系	履修形態	選択履修	授業時数	2単位
使用教科書	明解歴史総合（帝国書院）								
副教材等	「新編資料日本史」とうほう「図説日本史通覧」帝国書院「日本史重要語句Check List」啓隆社								
学習目標	1. 日本前近代の歴史をふまえ、近現代史を事実に基づき把握し、歴史の構造とその変化を理解する。 2. 歴史を現代の課題と関連して主体的に学び、歴史的思考力を養う。 3. 日本の歴史を世界の動きと関連して把握し、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身につける。								
授業の進め方、学習方法	客観的かつ公正な資料に基づいて、事実を正確に理解するとともに、多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を身に付けるようにする。その際、核兵器の脅威に着目し、戦争を防止し、民主的で平和な国際社会を実現することが重要な課題であることを認識する。また、地理・公民・特別活動との連携や国際環境との関連を重視する中、広い視野から多面的・多角的に歴史的事象を考察する。視聴覚教材も取り入れて、歴史に興味を持たせるとともに理解を深める手段とする。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評価規準
1学期	第1章 大日本帝国の誕生 1. 異国船の接近と幕藩体制の動揺 2. 蘭学と国学の誕生 3. 開国と社会変動 4. 尊王攘夷から倒幕へ 5. 明治維新と新政府の成立 6. 文明開化と復古 7. 地租改正と富国強兵	・近現代につながる日本の前近代の歴史を東アジアとの関わりから深める。 ・江戸時代後期の対外関係と農村地帯の変化を考えさせる。 ・蘭学の誕生や国学が各地に普及した理由をとらえさせる。 ・黒船は幕藩体制をどう揺るがしたか考えさせる。 ・薩摩藩と長州藩はなぜ手を結んだのか考えさせる。 ・年貢半減令はなぜ実現しなかったのか考えさせる。 ・文明開化は暮らしをどう変えたかと考えさせる。 ・新政府は民衆の支持を受けたのか考えさせる。	①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 ①江戸時代の社会、アジアと欧米諸国との貿易とその影響、日米修好通商条約の締結、開港による経済情勢の変化に着目し、それが幕末の政局に与えたインパクトを理解できたか。 ②幕末の政局の展開を、高まる外圧や、世直し一揆・「ええじゃないか」に象徴される民衆の動向と関わらせて考察できたか。版籍奉還・廃藩置県によって封建的割拠制が克服され、統一的国家が形成されたことの意味を考察し、自分の言葉で表現する。 ③江戸時代から明治時代への変化について歴史的事項を確認しながら変化の過程を順序だてて理解しようと努めている。
	8. 新政府の近隣外交 9. 民権思想と国会開設運動 10. 私擬憲法と政党の結成 11. 松方財政秩父事件 12. 大日本帝国憲法の制定	・日本が朝鮮を開港させたねらいを考えさせる。 ・自由民権運動の広がった理由をとらえさせる。 ・国民はどんな憲法を求めたか考えさせる。 ・経済の激変と国民の生活の変化をとらえさせる。 ・憲法が秘密のうちに作られた理由を考えさせる。 ・日本の朝鮮・台湾の植民地化過程をとらえさせる。	①最初の対等条約である日清修好条約と、不平等条約である日朝修好条約の性格の相違に着目できたか。 思想や教育制度から生活風俗に至る「文明開化」の諸相から、明治日本を特徴付ける性格を西欧模倣に着目できたか。 松方財政によるデフレーション、特に農村不況が、民権運動の急進化の背景をなしたことを理解できたか。 政府による憲法制定作業が国民に対して全く秘匿され、完成した憲法が一方的に国民に「与えられた」経緯を理解できたか。 ②立憲政友会の成立から桂園時代の開幕に至る過程について、軍備の拡張の視点を踏まえて考察できたか。
2学期	13. 初期議会と日清戦争 14. 条約改正と日英同盟 15. 産業革命と社会問題 16. 日露戦争 17. 重工業の発達と財閥の成立 18. 欧米文化と伝統文化	・条約改正が実現した背景を考えさせる。 ・産業革命は何をもたらしたか考えさせる。 ・財閥はどのようにして形成されたかと考えさせる。 ・近代文化の特徴をとらえさせる。 ・大韓帝国はいかにして廃滅させられたのか考えさせる。 ・誰が桂内閣を倒したか考えさせる。 ・第1次世界大戦になぜ日本が参戦したか考えさせる。 ・成金が生まれた理由を考えさせる。 ・大戦後、社会運動が発展する理由を考えさせる。 ・大正期の文化の特徴をとらえさせる。	①大正政変以降、政党の勢力が国民統合において中心的役割を果たすようになる事情を理解できたか。 思想や教育制度から生活風俗に至る「文明開化」の諸相から、明治日本を特徴付ける性格を西欧模倣に着目できたか。 ②大戦後の世界的なデモクラシーの風潮や日本の産業構造の変容（労働者の増大）を背景に、多方面で社会運動の高まりが見られたことを考察できたか。 ③欧米文化の関わりとその浸透度、社会風潮との関連付けに着目して考察しようとしている。
	19. 普通選挙法と治安維持法 20. 侵略戦争への序幕 21. 満州事変と「満州国」 22. 日中戦争	・日本はなぜ孤立の道を選んだか考えさせる。 ・日本軍は中国で何をしたか考えさせる。 ・国民が戦争に総動員されていく過程を理解させる。 ・戦争は文化をどう圧迫したかを考えさせる。 ・「大東亜共栄圏」とはどのようなものか考えさせる。 ・本土決戦準備は何をもたらしたのか考えさせる。	①恐慌の展開における不可欠事項に対する理解できたか。 ②社会主義運動の高まりと、これに対する徹底した弾圧の動きを、次第に緊迫する内外情勢と関連させて考察できたか。 ①天皇機関説問題や激しい弾圧による社会主義者の大量転向などを、国内の戦争反対勢力を一掃する動きとして理解できたか。 ②軍の一部によるクーデタ（二・二六事件）が鎮圧された後に、返って軍部の政治介入が強まったのはなぜか、事件後の軍内部の勢力配置の変化に着目して考察できたか。 ②国民生活や文化の各方面に渡る国家統制の強まりを、具体的な事例に則して考察できたか。
3学期	23. 第2次世界大戦と日本 24. 戦時下の学問と文化 25. アジア太平洋戦争 26. 戦争末期の国民生活 27. 日本の敗戦	・日米交渉から開戦、緒戦段階の日本の優勢から米軍の全面的反攻、終戦に至る日米戦争の過程を、戦争にともなう国民生活の崩壊とともに整理する。 ・戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を理解する。 ・東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結し、日本が独立した意義を考える。 ・冷戦秩序の下での日本国内政治について、55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。 ・高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。 ・高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、国際情勢の変化を踏まえて行った国内の政治対策について考察する。	②なぜ日本はアメリカとの戦争に踏みきったのか、経済的背景を含め、総合的に考察することができたか。 空襲、沖縄戦、原爆投下などに加え、アジア各地での戦闘、占領地域での住民動員などにも注目できたか。 ③労働三法・教育基本法の制定などを取り上げ、五大改革をはじめとするGHQによる諸政策が、日本の国民の戦争に対する反省に支えられて実施されたことに気づくことができたか。 ①サンフランシスコ平和条約の調印による日本の独立国としての主権回復の意義と安全保障をアメリカに依存する日米安保条約の締結の意味を理解できたか。 ②冷戦終結後の東欧革命、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などを取りあげ考察できたか。

成績評価方法	定期考査の点数、課題の提出状況・提出内容、出席状況、授業態度・授業内での活動、を総合的に勘案して、観点別に評価を行う。 観点別評価の内容は、①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の三項目に分け、各学習内容にあわせたそれぞれの評価規準を設ける。
--------	---

教 科	数学	科 目	数学Ⅱ・数学Ⅲ(理)	学年・類型	2年理系	履修形態	全員履修	授業時数	3単位
-----	----	-----	------------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	数研出版「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」
副教材等	数研出版「サクシード 数学Ⅱ+B」「サクシード 数学Ⅲ」「チャート式基礎からの数学Ⅱ+B改訂版」「チャート式基礎からの数学Ⅲ+C改訂版」

学習目標	1.指数関数・対数関数・三角関数及び微分・積分また数列・関数の極限の考えについての、基礎的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけようとする。 2.数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたり態度や創造性の基礎を養う。
授業の進め方,学習方法	1.公式や定理の成り立ちや成立過程を含めて必要性を実感するようにする。2.「予習→授業→復習」のサイクルの確立。3.計算力をつける演習をする。4.自分で考え、解く時間をとる。5.事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け、自分の考えを数学的に表現し、わからないことについて議論する。6.事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付ける。7.定期考査前の演習,長期休業を利用して発展的な課題にも挑戦し、より高い視点で物事を眺められるようにし、さらに自己内に新たな疑問の萌芽を養成する。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評価規準
1学期	第4章 三角関数 第1節 三角関数 4. 三角関数のグラフ 5. 三角関数の応用 第2節 加法定理 6. 加法定理 7. 加法定理の応用 8. 三角関数の合成	・三角関数のグラフを書くことにより、三角関数の諸性質がより明確に把握することができる。 ・三角関数の最大の特徴である周期性を正しく理解する。 ・三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。 ・加法定理から、正弦・余弦・正接の2倍角の公式、半角の公式を導き、三角関数を含む方程式・不等式を解くことができる。 ・三角関数の合成の公式を利用することで、三角方程式・三角不等式を解くことができる。	【知識・技能】 三角関数の値の変化やグラフの特徴および三角関数の2倍角の公式、三角関数の合成について理解する。 【思考・判断・表現】 三角関数の加法定理から新たな性質を導く。三角関数の式とグラフの特徴について多面的に考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 周期性を中心に三角関数の特徴について理解する。実際にグラフを書いて考察する。
	第5章 指数関数・対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 導関数の応用 3. 接線 4. 関数の値の変化	・有理数を指数に持つ累乗を定義し、指数法則で計算ができる。 ・累乗根の計算方法を理解する。 ・指数関数のグラフを用いて、指数方程式・指数不等式の解法を理解する。 ・対数を定義し、その基本的な性質を学び、対数の値を求めることや簡単な式の計算ができるようになる。 ・常用対数について取扱いの練習をする。 ・対数関数を定義し、対数関数のグラフがかけられる。 ・関数の平均変化率の極限値として微分係数を定義し、その幾何学的な意味を学ぶ。 ・導関数の公式をつくり、整関数を微分する計算を身につける。	【知識・技能】 指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解し、指数法則を用いて、数や式の計算ができる。簡単な対数の計算で、対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。微分係数や導関数についての意味を理解し、関数の導関数を求めることができる。 導関数を用いて関数の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形を書く方法を理解する。 【思考・判断・表現】 指数と対数を相互に関連付けて考察する。関数と導関数の関係について考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 指数と対数の関係からそれぞれの性質や関数の理解を深め事象の考察に活用することができる。
2学期	5. 最大値・最小値 6. 関数のグラフと 方程式・不等式 第3節 積分法 7. 不定積分 8. 定積分 9. 面積 数学Ⅲ 第1章 関数	・ $f(x)$ の符号と関数値の増減の関係を調べ、極値について学ぶ。また、その過程ではグラフがしっかりかけられる。 ・変域の限られた関数の最大・最小を考察できる。 ・方程式の実数解の個数や不等式の証明が、微分法的应用として扱えるようにする。 ・不定積分を定義し、導関数の公式を使って不定積分の公式を導き、整関数についての不定積分の計算ができる。 ・定積分と原始関数との関係を理解し、整関数についての定積分が求められる。 ・曲線で囲まれた平面図形の面積が、定積分によって求められることを理解し、実際に計算できる。 ・分数・無理関数のグラフが描け、そのグラフを利用して方程式や不等式を解くことができるようにする。逆関数・合成関数を求められるようにする。	【知識・技能】 不定積分および定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求める。 【思考・判断・表現】 関数の局所的な変化に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 極限を直感的にとらえることで曲線の接線の意味を明らかにし、接線の傾きの変化から曲線の増減や概形を意図的に調べようとする。 微分の逆演算として定義される積分に関心を示し、直線や放物線で囲まれる図形の面積などに積極的に活用しようとし、直感的・視覚的に理解し、考察する。
	第2章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限	・数列の極限の概念を確認し、収束、発散の意味がわかるようする。また、極限値の計算の基本性質を理解し、十分に活用できるようにする。さらに、無限等比数列の極限について、収束条件を理解し、極限の計算ができるようにする。 ・無限級数の意味、および無限級数の収束・発散の意味を理解し、極限の計算が正確にできるようにする。また、無限等比級数やいろいろな無限級数についての計算ができるように指導するとともに、その利用について理解させる。 ・関数の極限の意味とその表し方及び極限値の性質について学び、指数・対数・三角関数の極限が求められるようにする。 ・関数の連続性の意味を確認し、連続関数の基本的な性質と応用について学ぶ。	【知識・技能】 分数関数・無理関数・のグラフの特徴、合成関数・逆関数の意味を理解する。数列の極限について理解し、簡単な数列の極限を求められる。 【思考・判断・表現】 関数のグラフの特徴を多面的に考察する。数列や関数の値の極限に着目し、事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 数列の極限について、図などを利用して、直感的に理解しようとする。 関数の極限は、数列の極限との類似点と相違点を対比しながら考察する。
	第3章 微分法 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数 第4章 微分法的应用 第1節 導関数の応用	・関数の微分可能性の概念を理解し、連続性との関連について学ぶ。 ・積と商の微分法の公式合・成関数や逆関数を用いて計算が正確にできるようにし、演算技法を理解するとともに、その応用についても学ぶ。 ・ $\sin x$, $\cos x$, $\tan x$, $\log x$, e^x の導関数を求め、いろいろな関数を微分する計算を身につける。 ・高次導関数の概念と記号を学び、第2次・第3次導関数が求められるようにする。 ・微分係数の幾何学的意味を再確認し、接線の方程式とその応用について学ぶ。 ・関数の増減と $f'(x)$ の符号との関係を再確認し、様々な関数について増減・極値・極限を調べて、グラフが描けるようにする。 ・第2次導関数を用いて、グラフの凹凸・変曲点・極値を調べる。	【知識・技能】 微分の可能性、関数の積および商の導関数について理解する。導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べ、グラフの概形を書くことが出来る。 【思考・判断・表現】 関数の局所的な変化や大域的な変化に着目し、事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決する過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 関数のグラフを書くことの理論を詳しく知ることで、直感的に理解した事柄を、数学的に明確に把握しようとする。

成績評価方法	1. 定期考査の成績 * 定期考査においては、知識・技能・処理、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度、数学的な考え方ををみるための問題を出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点および伸長の状況などを評価する。 (3) 演習ノートやレポートの提出状況・課題テスト・小テストの成績などを評価する。 以上のすべてを対象に、総合的に判断する。
--------	--

教 科	数 学	科 目	数学B	学年・類型	2年文系	履修形態	全員履修	授業時数	3単位
-----	-----	-----	-----	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	数研出版「数学B」「数学C」
副教材等	数研出版「サクシード 数学Ⅱ+B」「サクシード 数学C」「チャート式基礎からの数学Ⅱ+B」「チャート式基礎からの数学Ⅲ+C」

学習目標	数列では、等差数列、等比数列などの数列について一般項や第 n 項までの和を求めたり、記号 Σ の意味を理解しそれを用いたりできるようにする。さらに、漸化式と数学的帰納法について理解する。統計的な推測では、確率変数とその分布について理解し、それらを不確定な事象の考察に活用できるようにする。ベクトルでは平面上のベクトルおよび空間におけるベクトルの意味や演算、成分および内積などの概念を理解し、ベクトルを用いて図形の性質を考察する。
授業の進め方、学習方法	1.公式や定理の成り立ちや成立過程を含めて必要性を実感できるようにする。2.「予習→授業→復習」のサイクルの確立。3.計算力をつける演習をする。4.自分で考え、解く時間をとる。5.事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け、自分の考えを数学的に表現し、わからないことについて議論する。6.事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付ける。7.定期考査前の演習、長期休業を利用して発展的な課題にも挑戦し、より高い視点で物事を眺められるようにし、さらに自己内に新たな疑問の萌芽を養成する。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評価規準
1 学期	数学B 第1章 数列 第1節 いろいろな数列の和	和を求める上で工夫が必要な数列について学ぶ。 第 n 項までの和を求める過程を理解し、その和を求めることができるようにする。 隣接する2項および3項または2つの数列の関係を把握し、工夫することで漸化式を用いて表された数列の一般項を導くことができるようにする。	【知識・技能】 Σ の意味を理解し、階差数列など色々な数列の表し方ができる。 【思考・判断・表現】 数列の規則性に着目し、一般項や和について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 数列の規則性に関心をもち、その良さを活用しようとしている。
	数学B 第1章 数列 第2節 数学的帰納法 数学C 第1章 平面上のベクトル 第1節 平面上のベクトルとその演算	数学的帰納法の意味を理解し、それを用いて証明可能な命題を示す。 証明手順が決まっているので書き方を理解させる。 ベクトルの内積の意味を理解し、平面図形の性質の考察に内積を活用することができるようにする。	【知識・技能】 数学的帰納法の原理を理解している。平面上のベクトルの演算と成分および内積の性質や公式について理解している。ベクトルを用いて図形の性質を考察することを理解している。 【思考・判断・表現】 座標による解析的な図形の性質についてベクトルを用いて見通しをもって論理的に考察できる。ベクトルを用いて図形の性質について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 実生活にある事象をベクトルを用いて数学的に処理する態度を養い、その有用性を認識している。
2 学期	数学C 第1章 平面上のベクトル 第2節 ベクトルと平面図形	位置ベクトルを活用することによって図形に関する事柄について形式的な処理ができることを理解し、平面図形の性質の考察に活用することができるようにする。	【知識・技能】 平面上のベクトルの演算と成分および内積の性質や公式について理解している。ベクトルを用いて図形の性質を考察することを理解している。 【思考・判断・表現】 座標による解析的な図形の性質についてベクトルを用いて見通しをもって論理的に考察できる。ベクトルを用いて図形の性質について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 実生活にある事象をベクトルを用いて数学的に処理する態度を養い、その有用性を認識している。
	数学C 第2章 空間のベクトル	空間座標の概念を導入し、その意味や表し方について理解し、内積や成分などの平面上のベクトルの考えを空間に拡張して空間ベクトルを理解する。	【知識・技能】 空間のベクトルの演算と成分および内積の性質や公式について理解している。ベクトルを用いて図形の性質を考察することを理解している。 【思考・判断・表現】 平面上のベクトルの性質がそのまま空間のベクトルでも成り立つことの有用性を認識できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 平面上のベクトルの性質をもとに空間のベクトルの性質を考えようとしている。
3 学期	数学B 第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 第2節 統計的な推測	確率変数とその分布、統計的な推測について理解し、それらを不確定な事象の考察に活用できるようにする。二項分布、正規分布について理解し、二項分布が正規分布で近似できることを知り、それらを事象の考察に活用する。標本調査の考え方について理解し、標本を用いて母集団の傾向を推測できることを知る。	【知識・技能】 確率変数の平均(期待値)と分散・標準偏差の意味とその定義式を理解している。正規分布について基本的な知識を身に付けている。母平均の推定を理解し、信頼区間を計算できる。 【思考・判断・表現】 具体例を通して確率変数と確率分布について考察し、応用することができる。標本調査の意義を知り、その基礎となる母集団と標本について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 正規分布の性質や統計的な推測に関心をもち、データ処理に関する問題に活用しようとしている。

成績評価方法	<p>1. 定期考査の成績</p> <p>* 定期考査においては、知識・技能・処理、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度、数学的な考え方ををみるための問題を出題する。</p> <p>2. 学習態度等の平常点</p> <p>(1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度</p> <p>(2) 授業時などの学習過程で【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点および伸長の状況などを評価する。</p> <p>(3) 演習ノートやレポートの提出状況・課題テスト・小テストの成績などを評価する。</p> <p>以上のすべてを対象に、総合的に判断する。</p>
--------	---

教 科	数 学	科 目	数学B	学年・類型	2年理系	履修形態	全員履修	授業時数	3単位
-----	-----	-----	-----	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	数研出版「数学B」「数学C」
副教材等	数研出版「サクシード 数学Ⅱ+B」「サクシード 数学C」「チャート式基礎からの数学Ⅱ+B」「チャート式基礎からの数学Ⅲ+C」

学習目標	数列では,等差数列,等比数列などの数列について一般項や第n項までの和を求めたり,記号 Σ の意味を理解しそれを用いたりできるようにする。さらに,漸化式と数学的帰納法について理解する。統計的な推測では,確率変数とその分布について理解し,それらを不確定な事象の考察に活用できるようにする。ベクトルでは平面上のベクトルおよび空間におけるベクトルの意味や演算,成分および内積などの概念を理解し,ベクトルを用いて図形の性質を考察する。複素数平面では,複素数を複素数平面上の点として表示し,加法・減法,および絶対値のもつ幾何学的意味を明らかにし,その有用性を認識する。
授業の進め方,学習方法	1.公式や定理の成り立ちや成立過程を含めて必要性を実感するようにする。2.「予習→授業→復習」のサイクルの確立。3.計算力をつける演習をする。4.自分で考え,解く時間をとる。5.事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け,自分の考えを数学的に表現し,わからないことについて議論する。6.事象を数学的に考察し表現したり,思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して,数学的な見方や考え方を身に付ける。7.定期考査前の演習,長期休業を利用して発展的な課題にも挑戦し,より高い視点で物事を眺められるようにし,さらに自己内に新たな疑問の萌芽を養成する。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評価規準
1学期	数学B 第1章 数列 第1節 いろいろな数列の和 第2節 数学的帰納法	和を求める上で工夫が必要な数列について学ぶ。 第n項までの和を求める過程を理解し,その和を求めることができるようにする。 隣接する2項および3項または2つの数列の関係を把握し,工夫することで漸化式を用いて表された数列の一般項を導くことができるようにする。 数学的帰納法の意味を理解し,それを用いて証明可能な命題を示す。 証明手順が決まっているので書き方を理解させる。	【知識・技能】 Σ の意味を理解している。漸化式と数学的帰納法の意味を理解している。 【思考・判断・表現】 数列の規則性に着目し,一般項や和について考察することができる。数列の漸化式から一般項を推定し証明するなどの考察を通して,論理的な思考力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 数列の規則性に関心を持ち,その良さを活用しようとしている。自然数に関する命題を証明する方法として数学的帰納法の有用性について考えようとしている。
	数学C 第1章 平面上のベクトル 第1節 平面上のベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形	ベクトルの内積の意味を理解し,平面図形の性質の考察に内積を活用することができるようにする。 位置ベクトルを活用することによって図形に関する事柄について形式的な処理ができることを理解し,平面図形の性質の考察に活用することができるようにする。	【知識・技能】 平面上のベクトルの演算と成分および内積の性質や公式について理解している。ベクトルを用いて図形の性質を考察することを理解している。 【思考・判断・表現】 座標による解析的な図形の性質についてベクトルを用いて見通しをもって論理的に考察できる。ベクトルを用いて図形の性質について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 実生活にある事象をベクトルを用いて数学的に処理する態度を養い,その有用性を認識している。
2学期	数学C 第2章 空間のベクトル	空間座標の概念を導入し,その意味や表し方について理解し,内積や成分などの平面上のベクトルの考えを空間に拡張して空間ベクトルを理解する。	【知識・技能】 空間のベクトルの演算と成分および内積の性質や公式について理解している。ベクトルを用いて図形の性質を考察することを理解している。 【思考・判断・表現】 平面上のベクトルの性質がそのまま空間のベクトルでも成り立つことの有用性を認識できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 平面上のベクトルの性質をもとに空間のベクトルの性質を考えようとしている。
	数学B 第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 第2節 統計的な推測	確率変数とその分布,統計的な推測について理解し,それらを不確定な事象の考察に活用できるようにする。二項分布,正規分布について理解し,二項分布が正規分布で近似できることを知り,それらを事象の考察に活用する。標本調査の考え方について理解し,標本を用いて母集団の傾向を推測できることを知る。	【知識・技能】 確率変数の平均(期待値)と分散・標準偏差の意味とその定義式を理解している。正規分布について基本的な知識を身に付けている。母平均の推定を理解し,信頼区間を計算できる。 【思考・判断・表現】 具体例を通して確率変数と確率分布について考察し,応用することができる。標本調査の意義を知り,その基礎となる母集団と標本について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 正規分布の性質や統計的な推測に関心を持ち,データ処理に関する問題に活用しようとしている。
3学期	数学C 第3章 複素数平面	複素数平面と複素数の極形式,複素数の実数倍,和,差,積及び商の図形的な意味を理解し,それらを事象の考察に活用する。ド・モアブルの定理について理解する。	【知識・技能】 複素数の極形式の基本的な性質を理解している。複素数平面を用いて図形の性質を調べることができる。 【思考・判断・表現】 複素数の諸演算と複素数平面上の点の移動との関係を考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 複素数平面や複素数の極形式に関心を持ち,それらを複素数平面上の図形の性質の考察に活用しようとしている。

成績評価方法	1. 定期考査の成績 * 定期考査においては,知識・技能・処理,思考・判断・表現,主体的に学習に取り組む態度,数学的な考え方ををみるための問題を出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1) 普通の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について,良い点および伸長の状況などを評価する。 (3) 演習ノートやレポートの提出状況・課題テスト・小テストの成績などを評価する。 以上のすべてを対象に,総合的に判断する。
--------	--

教 科	理科	科 目	化学基礎(文)	学年・類型	2年文系	履修形態	選択履修	授業時数	2単位
-----	----	-----	---------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	化学基礎 （東京書籍）(化基702)
副教材等	サイエンスビュー化学総合資料(実教出版) ニューグローバル化学基礎＋化学(東京書籍)

学習目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、日常生活における化学の果たしている役割を理解する。 2 酸・塩基の概念や反応を理解し、日常生活でのかかわりを理解する。 3 酸化・還元 の概念や反応を理解し、日常生活でのかかわりを理解する。 4 探究的な要素を取り入れることにより、学習内容を深め思考力や主体的に取り組む姿勢を高める。
授業の進め方,学習方法	1 関心・意欲・態度を身に付けさせる…授業内容と科学的な事物・現象を関連させ、集団での議論など主体的に取り組むよう心掛ける。 2 思考・判断力を養う…化学的な事物・現象に問題を見出し、実験・観察を通し事象を論理的・分析的に考察し、問題を解決し、科学的に判断できるようにする。 3 実験を的確に行う力を表現力を養う…観察・実験の技能を習得し、それらを科学的に探究する方法を身に付けさせる、結果を的確に表現できるようにする。 4 小テストや定期考査毎に問題集のノート提出で課題に取り組ませ、定期考査の見直しなど復習に重点を置くことにより基礎力の定着を図る。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評価規準
1学期	<物質の変化> 2章 酸と塩基 1節 酸と塩基 2節 水素イオン濃度とpH	・酸と塩基の性質 ・酸と塩基の定義 ・広い意味の酸・塩基 ・酸と塩基の価数 ・酸と塩基の強弱 ・水の電離と水素イオン濃度 ・水素イオン濃度とpH ・pH指示薬とpHの測定	【知識・技能】 広い意味での酸と塩基の定義や酸と塩基の価数、水素イオンとpHの関係などを正確に理解しているかで評価する。 【思考・判断・表現】 電離度と酸・塩基の強弱の関係および反応性の違い、身の回りの物質のpHの大小などが判断できるかで評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 pHの生活への関りなどを知らうとする態度、課題等に対する取り組みで評価する。
	3節 中和反応と塩 4節 中和滴定	・中和反応と塩の生成 ・塩の種類と塩の水溶液の性質 ・弱酸・弱塩基の遊離反応 ・酸化物の反応 ・中和反応の量的関係 ・中和滴定 ・滴定曲線	【知識・技能】 塩の分類や性質、中和の量的関係を理解し、中和滴定における実験操作の技術習得などで評価する。 【思考・判断・表現】 弱酸の遊離に関する原理、酸化物が中和反応する理由、滴定曲線の大きく変化する理由などの考察における判断で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 中和反応や塩が生活でどう利用されているかなどを知らうとする態度、課題等に対する取り組みで評価する。
2学期	第3章 酸化還元反応 1節 酸化と還元 2節 酸化剤と還元剤	・酸化と還元 ・酸化数 ・酸化還元反応と酸化数 ・酸化剤と還元剤 ・電子の授受と酸化還元反応 ・酸化剤と還元剤のはたらきの強さ ・酸化剤と還元剤の量的関係	【知識・技能】 酸化還元の定義や酸化数との関連、酸化剤や還元剤の働きと量的関係の理解などで評価する。 【思考・判断・表現】 酸塩基の反応と酸化還元反応の本質的な違いや、酸化数の変化と酸化剤・還元剤の強さとの関連などについて判断できるかで評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 酸化剤や還元剤が生活でどう利用されているかなどを知らうとする態度、課題等に対する取り組みで評価する。
	3節 金属の酸化還元反応 4節 酸化還元反応の利用	・金属のイオン化傾向 ・金属の反応性 ・電池のしくみ ・実用電池 ・金属の精錬	【知識・技能】 金属のイオン化列や金属の反応式、電池の基本的な原理などの理解などで評価する。 【思考・判断・表現】 金属のイオン化傾向と反応性の関係、実用電池の性質とその用途の関連などを考察できるかなどで判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 生活における電池の利用などを知らうとする態度、課題等に対する取り組みで評価する。
3学期	終章 化学が拓く世界 (第1章 1編 化学とは何か)	・金属 ・セラミックス ・プラスチック ・繊維 ・食品 ・洗剤 ・電池	【知識・技能】 どのような物質が生活に利用されているかについて理解しているかで評価する。 【思考・判断・表現】 物質の利用のされ方と、その物質の物性についてどのような関連があるのかを考察できるかなどで判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 物質の用途について、メリットとデメリットの両面で考えようとする態度、課題等の取り組みで判断する。

成績評価方法	【知識・技能】定期考査の基本的な出題などにおいて知識を、実験操作等で技能の習得を判断する。
	【思考・判断・表現】授業における発表内容やICT機器の活用、定期考査における応用的な出題・記述問題、実験に関するレポートなどにおいて判断する。
	【主体的に学習に取り組む態度】出席状況や授業態度、実験や課題に対する取り組みなどで判断する。

教 科	理科	科 目	化学基礎・化学(理)	学年・類型	2年理系	履修形態	選択履修	授業時数	3単位
使用教科書 改訂 化学基礎（東京書籍）									
副教材等 サイエンスビュー化学総合資料(実教出版) ニューグローバル化学基礎＋化学Vol.1理論編＋化学Vol.2物質編(東京書籍)									
学習目標		1 日常生活や社会との関連を図りながら、日常生活における化学の果たしている役割を理解する。 2 酸・塩基の概念や反応を理解し、日常生活でのかかわりを理解する。 3 酸化・還元 の概念や反応を理解し、日常生活でのかかわりを理解する。 4 探究的な要素を取り入れることにより、学習内容を深め思考力や主体的に取り組む姿勢を高める。							
授業の進め方,学習方法		1 関心・意欲・態度を身に付けさせる…授業内容と科学的な事物・現象を関連させ、集団での議論など主体的に取り組むよう心掛ける。 2 思考・判断力を養う…化学的な事物・現象に問題を見出し、実験・観察を通し事象を論理的・分析的に考察し、問題を解決し、科学的に判断できるようにする。 3 実験を的確に行う力を表現力を養う…観察・実験の技能を習得し、それらを科学的に探究する方法を身に付けさせる、結果を的確に表現できるようにする。 4 小テストや定期考査毎に問題集のノート提出で課題に取り組ませ、定期考査の見直しなど復習に重点を置くことにより基礎力の定着を図る。							
学 習 計 画									
学 期	単 元	学 習 内 容					評価規準		
1学期	＜物質の変化＞ 2章 酸と塩基 1 節 酸と塩基 2 節 水素イオン濃度とpH 3 節 中和反応と塩 4 節 中和滴定	・酸と塩基の定義と性質 ・酸と塩基の強弱 ・水の電離と水素イオン濃度 ・水素イオン濃度とpH ・中和反応と塩の生成 ・塩の種類と塩の水溶液の性質 ・中和反応の量的関係 ・中和滴定					【知識・技能】 広い意味での酸と塩基の定義や酸と塩基の価数、水素イオンとpHの関係などを正確に理解しているかで評価する。 【思考・判断・表現】 電離度と酸・塩基の強弱の関係および反応性の違い、身の回りの物質のpHの大小などが判断できるかで評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 pHの生活への関りなどを知らうとする態度、課題等に対する取り組みで評価する。		
	3章 酸化還元反応 1 節 酸化と還元 2 節 酸化剤と還元剤 3 節 金属の酸化還元反応 4 節 酸化還元反応の利用 ＜化学:化学反応とエネルギー＞ 1 節 電池 2 節 電気分解	・酸化と還元 ・酸化還元反応と酸化数 ・酸化剤と還元剤 ・電子の授受と酸化還元反応 ・酸化剤と還元剤のはたらきの強さ ・酸化剤と還元剤の量的関係 ・金属のイオン化傾向 ・電池のしくみ ・実用電池 ・電気分解 ・電気分解の法則					【知識・技能】 塩の分類や性質、中和の量的関係を理解し、中和滴定における実験操作の技術習得などで評価する。 【思考・判断・表現】 弱酸の遊離に関する原理、酸化物が中和反応する理由、滴定曲線の大きく変化する理由などの考察における判断で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 中和反応や塩が生活でどう利用されているかなどを知らうとする態度、課題等に対する取り組みで評価する。		
2学期	＜物質の状態＞1章 物質の状態 1 節 物質の三態 2 節 気体・液体の状態変化 2章 気体の性質 1 節 気体 2 節 気体の状態方程式 3章 溶液の性質 1 節 溶解	・物質の三態 ・気体・液体の状態変化 ・ボイル・シャルルの法則 ・気体の状態方程式 ・気体の分子量 ・混合気体と分圧 ・蒸気圧 ・理想気体と実在気体 ・溶解のしくみ ・固体の溶解度 ・結晶水の扱い ・溶液の濃度					【知識・技能】 酸化還元の定義や酸化数との関連、酸化剤や還元剤の働きと量的関係の理解などで評価する。 【思考・判断・表現】 酸塩基の反応と酸化還元反応の本質的な違いや、酸化数の変化と酸化剤・還元剤の強さとの関連などについて判断できるかで評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 酸化剤や還元剤が生活でどう利用されているかなどを知らうとする態度、課題等に対する取り組みで評価する。		
	＜化学反応の早さと平衡＞ 1章 化学反応の速さ 2章 化学平衡 3章 水溶液中の化学平衡 ＜無機化学＞ 1章 周期表と元素 2章 非金属元素の単体と化合物	・反応速度と触媒 ・可逆反応と化学平衡 ・平衡定数 ・ルシャトリエの原理 ・電離平衡 ・加水分解と緩衝液 ・溶解平衡 ・周期表と元素 ・非金属元素 ・気体					【知識・技能】 どのような物質が生活に利用されているかについて理解しているかで評価する。 【思考・判断・表現】 物質の利用のされ方と、その物質の物性についてどのような関連があるのかを考察できるかなどで判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 物質の用途について、メリットとデメリットの両面で考えようとする態度、課題等の取り組みで判断する。		
3学期	＜化学反応の早さと平衡＞ 1章 化学反応の速さ 2章 化学平衡 3章 水溶液中の化学平衡 ＜無機化学＞ 1章 周期表と元素 2章 非金属元素の単体と化合物	・反応速度と触媒 ・可逆反応と化学平衡 ・平衡定数 ・ルシャトリエの原理 ・電離平衡 ・加水分解と緩衝液 ・溶解平衡 ・周期表と元素 ・非金属元素 ・気体					【知識・技能】 どのような物質が生活に利用されているかについて理解しているかで評価する。 【思考・判断・表現】 物質の利用のされ方と、その物質の物性についてどのような関連があるのかを考察できるかなどで判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 物質の用途について、メリットとデメリットの両面で考えようとする態度、課題等の取り組みで判断する。		
成績評価方法		【知識・技能】定期考査の基本的な出題などにおいて知識を、実験操作等で技能の習得を判断する。 【思考・判断・表現】授業における発表内容やICT機器の活用、定期考査における応用的な出題・記述問題、実験に関するレポートなどにおいて判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】出席状況や授業態度、実験や課題に対する取り組みなどで判断する。							

教 科	理科	科 目	物理	学年・類型	2年選択者	履修形態	選択履修	授業時数	2単位
使用教科書	物理(数研出版)								
副教材等	新課程リードα物理(数研出版) 良問の風(河合出版)								

学習目標	さまざまな物理現象を取り扱い、観察、実験などを通して物理的に考察する能力と態度を身につける。 物理現象を説明するためのことば(物理量)を覚え、物理量と物理量の間にある関係(物理法則)を理解し、それらを使って物理現象を説明していく。
授業の進め方、学習方法	物理現象を理解するための物理量や物理法則の説明が授業の中心となる。また、理解を深めるために適宜、問題演習や実験などを行う。 提出課題としては、問題集(リードα物理)の考查範囲の問題を考查ごとに解答する。問題集(良問の風)の問題を週ごとに範囲を決めて解答していく。授業では受け身にならず、自ら物理現象を説明できるように積極的に手と頭を動かして取り組んでいかなければならない。 2年、3年と継続履修。興味関心に応じて選択すること。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評価規準
1学期	第3編 波 第2章 音の伝わり方 2. 音のドップラー効果 第3章 光 1. 光の性質 2. レンズと鏡	波源と観測者とが相対的に運動しているときには、観測者する振動数は波源本来の振動数とは異なることを理解する。音源が動く場合には、観測者の運動に関係なく波長が変化することを理解する。 光は電磁波の一種であることや、光の速さについて学ぶ。反射・屈折の法則が成り立つこと、全反射の機構を理解する。光の分散、散乱、偏光についても学ぶ。 レンズがつくる像を図および実験を通して理解する。また、写像公式との関係を理解する。球面鏡がつくる像は、レンズの場合と似た手順で求められることを学び、像の作図方法、写像公式を理解する。	【知識・技能】 ドップラー効果の原理を理解し、公式が使える。 光の進み方の作図ができ、像の位置を求めることができる。 【思考・判断・表現】 屈折の法則、全反射を理解する。 【主体的に学習に取り組む態度】 波動の一種である光波について自らの学びを主体的に考えられる。
	第3編 波 第3章 光 3. 光の干渉と回折 第1編 力と運動 第2章 剛体 1. 剛体にはたらく力のつりあい 2. 剛体にはたらく力の合力と重心	ヤングの実験、薄膜による光の干渉などを題材に、光の干渉について理解する。 剛体にはたらく力の効果は、力の大きさと向きほかに、作用線の位置により決まることを理解する。また、剛体にはたらく力がつりあうためには、剛体が並進運動と回転運動をしないことに留意する。 剛体にはたらく力の合力をさまざまな場合に応じて求められるようにする。また、重心についても理解する。	【知識・技能】 光の干渉の原理を理解する。 力のモーメントを理解する。 【思考・判断・表現】 さまざまな光の干渉現象を理解し、物理量を求めることができる。 力のモーメントを用いて剛体のつり合いが説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 剛体の運動について自らの学びを主体的に考えられる。
2学期	第1編 力と運動 第3章 運動量の保存 1. 運動量と力積 2. 運動量保存則 3. 反発係数 第4章 円運動と万有引力 1. 等速円運動 2. 慣性力	運動の法則から、力積と運動量の関係、運動量保存則を理解する。反発係数は衝突直後と直前における2物体の相対速度の大きさの比で表されることを理解する。 等速円運動の速さ、角速度、回転数、周期などの語句を理解する。これらの間に成り立つ関係を学習し、向心加速度、向心力についても理解する。 ある物体を異なる立場(座標系)で観測するときには、異なった運動が観測され、異なった式が立てられる場合があることを認識させる。慣性力が働く場合について理解する。	【知識・技能】 等速円運動の諸要素を認識し、相互の関係を理解している。 【思考・判断・表現】 運動量と力積、運動量保存の法則を使用して、物体の運動を説明できる。 慣性力を使って運動を解釈できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 力学の諸問題に対して自らの学びを主体的に考えられる。
	第1編 力と運動 第4章 円運動と万有引力 3. 単振動 4. 万有引力	等速円運動をする物体の直径方向への正射影が単振動であることを理解する。単振動は放物運動と並んで、正射影の運動を扱う重要な例である。物体にはたらく力が、常に振動の中心へ向かって引き戻す向きであり、その大きさが振動の中心からの距離に比例するとき、物体の運動は単振動であることを理解する。 質量をもつ物体間にはたらく万有引力について理解する。惑星の運動を物理的に理解する。	【知識・技能】 単振動の運動を理解している。 万有引力の法則を理解している。 【思考・判断・表現】 単振動について、種々の問題を正しく解くことができる。 万有引力について、種々の問題を正しく解くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 力学の諸問題に対して自らの学びを主体的に考えられる。
3学期	第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化 1. 気体の法則 2. 気体分子の運動 3. 気体の状態変化	ボイル・シャルルの法則、理想気体の状態方程式を学ぶ。 気体分子の運動を力学的に扱って気体の圧力を表す式を導く。この式と理想気体の状態方程式とから、気体分子の運動エネルギーの平均値が絶対温度に比例することを導く。 内部エネルギーが絶対温度に比例することを理解する。熱力学第一法則を理解する。熱力学第一法則の式を用いて定積変化、定圧変化、等温変化、断熱変化を理解する。	【知識・技能】 熱サイクルから気体の状態を計算できる。 【思考・判断・表現】 気体の状態を、状態方程式から求めることができる。 気体の圧力を分子運動から導くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 熱力学の諸問題に対して自らの学びを主体的に考えられる。

成績評価方法	<p>【知識・技能】【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期考査や授業に対する取り組み状況から総合的に判断する。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 考査課題、長期休業中の課題 授業の取り組み(授業態度、出席状況、学習活動への参加状況)などから総合的に評価する
--------	---

教 科	理科	科 目	生物	学年・類型	2年選択者	履修形態	選択履修	授業時数	2単位
-----	----	-----	----	-------	-------	------	------	------	-----

使用教科書	生物(数研出版)
副教材等	新課程 リードα生物(数研出版)

学習目標	1 1学年で学習した生物基礎の基本的事象を発展させて、近年の研究・知見を織り交ぜながら学習し、知識を身につける。 2 興味・関心・意欲を持って学習に取り組み、自然界の原理・原則を導き出す考え方を身につけ、学習した上で生じる疑問を探究する姿勢を身につける。 3 観察・実験を通して科学的な自然観を養う。 4 生物現象を学習することにより、自分自身や他者の命の営みを大切にし、他の生物に対しても、生命を尊重する精神を養う。
授業の進め方,学習方法	1 自作プリントを用いて授業を進め、自然現象への興味や疑問を抱きながら学習に取り組む。 2 プリントが終わるごとに各自で学習事項のチェックを行い、一時間ごとに基本的知識の定着を図る。 3 単元が終わるごとに観察・実験を行い、基本的な実験機器の操作や観察の技能を習得し、レポート提出を通して表現力を身につける。 4 定期考査前ごとに、問題演習を中心に取り組み、読解力・考察力を身につける。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評価規準
1学期	第1章 生物の進化 第1節 生命の起源と生物の進化 第2節 遺伝子の変化と多様性 第3節 遺伝子の組み合わせの変化	・生命起源・生物の変遷を、地球環境変化とともに理解させる。 ・染色体について、生物基礎の復習を行いつつ発展的内容を学習する。 ・配偶子形成で重要になる「減数分裂」、それに伴う遺伝子の組み合わせについて学習する。 ・基本的な遺伝の計算について、演習を通して学習する。	【知識・技能】 生物の進化、配偶子形成の基本的な過程の理解度合で評価する。 【思考・判断・表現】 遺伝子の組み合わせの要点の理解や遺伝計算の考察内容等で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む姿勢や、授業中の発問、発展的内容への学習意欲等で評価する。
	第4節 進化のしくみ 第5節 生物の系統と進化 第6節 人類の系統と進化 第2章 細胞と分子 第1節 生体物質と細胞	・進化のしくみと分子進化や種分化のしくみについて学習する。 ・生物の種類は多様であるが、それらが系統によって分類できることを理解させる。形態的な特徴にもとづいた分類ばかりでなく、DNAの塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列といった分子データにもとづいて系統関係が調べられていることについても扱う。 ・生体、細胞を構成する物質についての基本的知識を知る。 ・細胞内構造について、生物基礎の内容の復習と発展的内容を学習する。	【知識・技能】 進化のしくみに関する基本的な語句やメカニズム、細胞内構造の理解等で評価する。 【思考・判断・表現】 進化のしくみに関する計算や、メカニズムの理解等で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む姿勢や、授業中の発問、発展的内容への学習意欲等で評価する。
2学期	第2節 タンパク質の構造と性質 第3節 化学反応にかかわるタンパク質 第4節 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質 第3章 代謝 第1節 代謝とエネルギー	・生体内で特に重要なはたらきを担う「タンパク質」について、働きごとに主たる例を取り上げつつ、性質を学習する。 ・生体膜の性質と関与して、物質輸送に関連する膜タンパク質、モータータンパク質について学習する。 ・情報伝達、免疫に関するタンパク質のはたらきを、生物基礎の復習を行いつつ発展的内容を学習する。 ・代謝反応の基本的内容について、化学分野を交えながら学習する。	【知識・技能】 生物基礎の復習も含め、タンパク質の種類やはたらきの理解等で評価する。 【思考・判断・表現】 生体膜の変化や、物質輸送に関する考察等で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む姿勢や、授業中の発問、発展的内容への学習意欲等で評価する。
	第2節 呼吸と発酵 第3節 光合成 第4章 遺伝情報の発現と発生 第1節 DNAの構造と複製 第2節 遺伝情報の発現	・「呼吸」のメカニズム、「光合成」のメカニズムについて、化学分野を交えながら学習するについて、化学分野を交えながら学習する。 ・遺伝物質について、生物基礎の復習を行いつつ発展的内容を学習する。 ・「セントラルドグマ」の原則について、関与する物質を交えて具体的に学習する。	【知識・技能】 呼吸や光合成、遺伝子発現に関する基本的知識等で評価する。 【思考・判断・表現】 呼吸や光合成色素に関する実験レポートの考察する内容で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む姿勢や、授業中の発問、発展的内容への学習意欲等で評価する。
3学期	第3節 遺伝情報の発現調節 第4節 発生と遺伝子発現 第5節 遺伝子を扱う技術	・遺伝子発現の内容理解を図りつつ、遺伝子発現調節のメカニズムについて学習する。 ・発生過程について、カエルを例に学習する。 ・ヒトの発生過程について、生命倫理にも言及し学習する。 ・遺伝子組換え技術や、PCR法などなど基本的なバイオテクノロジー技術に加え、近年の研究を紹介し学習する。	【知識・技能】 遺伝子発現、発現調節に関する基本的知識等で評価する。 【思考・判断・表現】 発生過程やバイオテクノロジーに関する考察等で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む姿勢や、授業中の発問、発展的内容への学習意欲等で評価する。

成績評価方法	<p>【知識・技能】 授業への取り組み、観察・実験に対する態度で総合的に判断する。</p> <p>【思考・判断・表現】 発展的内容、グラフ・図表の読み取り、授業中の議論内容で総合的に判断する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 授業への取り組み、探究的活動や議論への参加姿勢で総合的に判断する。</p>
--------	---

教 科	保健体育	科 目	体 育	学年・類型	2年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
使用教科書	なし								
副教材等	なし								

学習目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>①運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。</p> <p>②生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>③運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力するなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>
授業の進め方・学習方法	生徒が運動領域・種目の選択を行う選択制授業を展開している。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評価規準
1学期	I ソフトボール (女) バスケットボール (男) ラグビー (女) バレーボール (男) テニス (男女)	<p>●柔道 武道の歴史・礼法・受け身(各種)・体さばき 「技」(固め・投げ・寝技)・打ち込み・かかり練習 乱取・試合 など</p> <p>●ダンス 基本的な運動要素(走る・伸びる・縮む・ジャンプ・ターン・転がる)・リズムダンス・イメージダンス(即興) 創作ダンス・発表会の企画、運営</p> <p>●ソフトボール スローイング・キャッチング・バッティング・フットワーク ゲーム運営(戦術) など</p> <p>●ハンドボール ドリブル・シュート(ジャンプ・ステップ)・各種パス 各種フォーメーション(戦術) など</p> <p>●テニス サーブ・ボレー・ストローク・ハーフコートラリー ミニゲーム(シングルス・ダブルス) など</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種目それぞれの特性を理解し、言語技術を活用して説明することができるか。 競技方法やルールについて理解しているか。 技能を実践の場において総合的に発揮することができるか。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種目それぞれについての特性を理解し、それぞれの課題に応じて練習できているか。 実践の場において成果をだすための的確な判断ができているか <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>各種目それぞれについての関心を持ち、意欲的に取り組む態度が身についているか。</p>
	II 水泳 (男女) 器械運動 (男女) 陸上競技 (男女) ダンス (男女) 柔道 (男女)	<p>●卓球 フォアハンド・バックハンド・ストローク・サーブ シングルスゲーム・ダブルスゲーム など</p> <p>●水泳 クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ クイックターン・メドレー など</p> <p>●バドミントン ストローク(オーバーヘッド・サイドアーム・アンダーアーム)サービス(ロング・ショート)・フライト(ハイクリア・ドロップ・スマッシュ・ドライブなど)・簡易ゲーム・ゲーム など</p> <p>●サッカー 各種トラップ・各種パス・各種シュート・3対1、4対1、5対5のミニゲーム、ゲーム など</p> <p>●バスケットボール ドリブル・シュート(ジャンプ・レイアップ)・各種パス 各種フォーメーション(戦術) など</p> <p>●陸上競技 ハードル走、跳躍(走幅跳、走高跳)、投擲(円盤投)</p> <p>●ラグビー(タグラグビー) 各種パス、1対1、2対1、サインプレー、ミニゲームなど</p>	
2学期	III バドミントン (女) 卓球 (男女) テニス (女) ソフトボール (男) ハンドボール (男)		
	IV バドミントン (男) テニス (男) 卓球 (男女) ハンドボール (女) サッカー (女)		
3学期	V バレーボール (女) 卓球 (男女) バスケットボール (女) サッカー (男) ラグビー (男)		

成績評価方法	<p>【知識・技能】</p> <p>能力を最大限に発揮し運動を行っているか。それぞれの運動種目の技能を身につけることができるか。それぞれの運動種目の特性、ルールを理解し行動することができるか。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>的確に状況を判断し、互いに協力して安全に運動を行うことができるか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>各運動に意欲を持って取り組んでいるか。積極的に取り組んでいるか。</p> <p>上記の観点より、学習活動、技能テスト、課題レポート(学習ノート含む)、出席状況等を総合的に評価します。</p>
--------	---

教 科	保健体育	科 目	保健	学年・類型	2年全員	履修形態	全員履修	授業時数	1単位
使用教科書	現代高等保健体育(大修館)								
副教材等	なし								

学習目標	<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>②健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p> <p>③生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。</p>
授業の進め方・学習方法	教科書や、パワーポイントを使用して、それぞれの単元の内容を講義していく。授業時のレポートやノートの提出がある。単元の内容に関連した時事問題を教材として扱うこともある。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評価規準
1学期	3 生涯を通じる健康 ①ライフステージと健康 ②思春期と健康 ③性意識と性行動の選択 ④妊娠・出産と健康 ⑤避妊法と人工妊娠中絶 ⑥結婚生活と健康 ⑦中高年期と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じて健康に生きていくために、現在、私たちが生きていく上でどのような健康問題があるのか、またそれらにどのように対処していけばよいのかを学ぶ。 ・性意識や性的欲求は男女で異なることを理解し、異性を尊重する態度を身に付ける。 ・性に関する正しい情報を選び、自分の意志と判断で行動することを理解する。 ・妊娠中や出産後の健康管理の重要性や配慮すべきことについて理解を深める。 ・望まない妊娠をしないことを学ぶ。 ・加齢にともない、心身が変化することを形態面および機能面から理解できるようにする。 ・わが国の世界一の高齢化の早さの現状を知り、高齢者のための社会的取り組みについて学習する。 	<p>3 生涯を通じる健康</p> <p>【知識・技能】 生涯の各段階における健康課題や保健・医療機関の活用などについて理解し、課題解決に役立つ知識を身につけているか。</p> <p>【思考・判断・表現】 生涯の各段階における健康の課題や自己管理の重要性、保健・医療の機関の活用について、自分の学習や経験を元にしたたり、資料や仲間の意見や考えなどを参考にしたりして、課題の設定や解決の方法を考え、判断できるか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 生涯の各段階における健康の課題に応じた自己の健康管理の必要性及び保健・医療機関の活用について関心を持ち、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換したり、課題について調べたりして、意欲的に学習しようとしているか。</p>
2学期	3 生涯を通じる健康 ⑧働くことと健康 ⑨労働災害と健康 ⑩健康的な職業生活 4 健康を支える環境づくり ①大気汚染と健康 ②水質汚濁・土壌汚染と健康 ③環境と健康に関わる対策 ④ごみの処理と上下水道の整備 ⑤食品の安全性	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意義と健康とのかかわり及び働き方や働く人の健康問題の変化について理解できるようにする。 ・労働災害の種類とその原因についてや労働災害を防止するために必要なことを学習する。 ・職場がおこなう健康に関する取り組みや余暇を積極的にとることの意義についての理解を深める。 ・大気汚染の原因と健康への影響と健康問題について学習する。 ・水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響について学習する。 ・環境汚染による健康被害を防ぐ方法や産業廃棄物の処理について理解を深める。 ・ごみの処理の現状やその課題、上下水道のしくみと健康にかかわる課題について理解を深める。 ・食品の安全性と健康とのかかわりや今日的課題について学習する。 	<p>4 健康を支える環境づくり</p> <p>【知識・技能】 学校や地域、労働の環境を健康に適したものにする、食品の安全性を確保する必要があることを理解し、課題解決に役立つ知識を身につけているか。</p> <p>【思考・判断・表現】 環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康について、自分の学習や経験をもとにしたたり、資料や仲間の意見や考え方などを参考にしたりして、課題の設定や解決の方法を考え、判断できるか。</p>
3学期	4 健康を支える環境づくり ⑥食品衛生にかかわる活動 ⑦保健サービスとその活用 ⑧医療サービスとその活用 ⑨医薬品の制度とその活用 ⑩さまざまな保健活動や社会的対策 ⑪健康に関する環境づくりと社会参加	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全性を確保するための行政や製造者、個人の役割について学習する。 ・保健行政の役割や保健サービスについて理解を深める。 ・わが国における医療保険や医療機関の役割について学習する。 ・医薬品の正しい使用法や安全性を守る取り組みについての理解を深める。 ・国際機関・民間機関などの保健活動や社会的対策について学習する。 ・健康の保持増進のための環境づくりについての理解を深める。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 環境と健康、環境と食品の健康、労働と健康について関心を持ち、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換したり、課題について調べたりして、意欲的に学習しようとしているか。</p>

成績評価方法	<p>【知識・技能】 定期考査、授業の観察など</p> <p>【思考・判断・表現】 定期考査、レポートやノート提出など</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 発表など</p> <p>上記より、平常の学習活動全般から得られる資料に基づき、教科「保健」の目標及び内容に沿って多面的・総合的に行う。</p>
--------	--

教 科	外国語	科 目	英語コミュニケーションⅡ(文)	学年・類型	2年文系	履修形態	全員履修	授業時数	4単位
-----	-----	-----	-----------------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	ELEMENT English Communication II
副教材等	Cutting Edge – Green, Focus on Listening – Pre-Advanced, 英単語ターゲット1900

学習目標	「英語コミュニケーションⅠ」の学習を踏まえ、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を効果的に関連付けた統合的な言語活動を通して、五つの領域の総合的な学習を行う。
授業の進め方,学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・指定された範囲を予習して授業に臨む。 ・授業で英文についての理解を深め、英文内容や内容についての意見を表現することを学ぶ。 ・英文で用いられている語彙・表現を使いこなせるよう、音読練習等を通して復習を行う。 ・文理共通3単位の学習に加え、さらに1単位の少人数・チームティーチングによる多様なコミュニケーション活動を行う。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評価規準
1学期	1 Cultures around the World <異文化理解> 2 Power of Words <スピーチ・生き方> Cutting Edge – Chapter 1-3 Focus on Listening – Training 1-4		【知識・技能】・【思考・判断・表現】 主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】 提出課題・小テストの結果等を総合的に判断して評価
	3 Preconception <ジェンダー・ファッション> 4 The Century of War <平和・人権> Cutting Edge – Chapter 4-6 Focus on Listening – Training 5-8		
2学期	5 How Our Minds Work <心理・経済> 6 IT and Life <現代社会・家族愛> Cutting Edge – Chapter 7-9 Focus on Listening – Training 9-12		
	7 Advances in Medical Technology <医学・科学技術> 8 A Tiny Step, a Big Impact <歴史・科学技術> Cutting Edge – Chapter 10-12 Focus on Listening – Training 13-16		
3学期	FR1 The True Story of the Bear behind Winnie-the-Pooh <動物・文学> FR2 Miss Moore Thought Otherwise <教育・女性> FR3 Moufflon—The Dog of Florence <動物・文学> Cutting Edge – Chapter 13-18 Focus on Listening – Training 17-20		

成績評価方法	定期考査・小テスト・提出課題を総合的に判断して行う。
--------	----------------------------

教 科	外国語	科 目	英語コミュニケーションⅡ(理)	学年・類型	2年理系	履修形態	全員履修	授業時数	3単位
-----	-----	-----	-----------------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	ELEMENT English Communication II
副教材等	Cutting Edge – Green, Focus on Listening – Pre-Advanced, 英単語ターゲット1900

学習目標	「英語コミュニケーションⅠ」の学習を踏まえ、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を効果的に関連付けた統合的な言語活動を通して、五つの領域の総合的な学習を行う。
授業の進め方,学習方法	・指定された範囲を予習して授業に臨む。 ・授業で英文についての理解を深め、英文内容や内容についての意見を表現することを学ぶ。 ・英文で用いられている語彙・表現を使いこなせるよう、音読練習等を通して復習を行う。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評価規準
1学期	1 Cultures around the World <異文化理解> 2 Power of Words <スピーチ・生き方> Cutting Edge – Chapter 1-3 Focus on Listening – Training 1-4		【知識・技能】・【思考・判断・表現】 主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】 提出課題・小テストの結果等を総合的に判断して評価
	3 Preconception <ジェンダー・ファッション> 4 The Century of War <平和・人権> Cutting Edge – Chapter 4-6 Focus on Listening – Training 5-8		
2学期	5 How Our Minds Work <心理・経済> 6 IT and Life <現代社会・家族愛> Cutting Edge – Chapter 7-9 Focus on Listening – Training 9-12		
	7 Advances in Medical Technology <医学・科学技術> 8 A Tiny Step, a Big Impact <歴史・科学技術> Cutting Edge – Chapter 10-12 Focus on Listening – Training 13-16		
3学期	FR1 The True Story of the Bear behind Winnie-the-Pooh <動物・文学> FR2 Miss Moore Thought Otherwise <教育・女性> FR3 Moufflon—The Dog of Florence <動物・文学> Cutting Edge – Chapter 13-18 Focus on Listening – Training 17-20		

成績評価方法	定期考査・小テスト・提出課題を総合的に判断して行う。
--------	----------------------------

教 科	外国語	科 目	論理・表現Ⅱ	学年・類型	2年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
-----	-----	-----	--------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	EARTHRIS English Logic and Expression II Advanced
副教材等	Active Writing Complete Course, スクランブル英語構文とイディオム

学習目標	「論理・表現Ⅰ」の学習内容を踏まえ、三つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」を中心とした発信能力の育成を強化することを目指す。
授業の進め方,学習方法	・指定された範囲を予習して授業に臨む。 ・授業でさまざまな表現方法を学ぶ。 ・復習として、配布される解答・解説も活用し、英語で表現できる幅を広げる。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評価規準
1学期	Part 1 Lesson 1 Have you ever experienced any cultural differences? さまざまな主語の形 Lesson 2 Where do you usually buy things? さまざまな動詞の形 Active Wrting Complete Course – Lesson 1-5		【知識・技能】・【思考・判断・表現】 主に定期考査により評価 【主体的に学習に取り組む態度】 提出課題・小テストの結果等を総合的に判断して評価
	Lesson 3 International events and cultural exchange 名詞のはたらきをする表現 Lesson 4 How have you been lately? 形容詞のはたらきをする表現 Lesson 5 How do you watch movies and things? 副詞のはたらきをする表現 Active Wrting Complete Course – Lesson 6-12		
2学期	Part 2 Lesson 1 Making life better 感情を表す Lesson 2 Good eating habits 助言する・忠告する／必要・義務を表す Active Wrting Complete Course – Lesson 13-17		
	Lesson 3 Visiting a new place 勧誘する・提案する／依頼する Lesson 4 Where would you like to live in the future? 賛成する／反対する Lesson 5 Which candidate is the right person? 意見を述べる／希望を述べる Active Wrting Complete Course – Lesson 18-22		
3学期	Part 3 Lesson 1 Advertising a language school パラグラフの構成 Lesson 2 Inventions and discoveries 例示・列挙 Lesson 3 How people use their smartphones 比較・対照 Lesson 4 Our accommodation in Okinawa 原因・結果 Lesson 5 Getting ready for high school exams 時間的順序・手順		

成績評価方法	定期考査・小テスト・提出課題を総合的に判断して行う。
--------	----------------------------

教 科	情 報	科 目	情 報 I	学年・類型	2年全員	履修形態	全員履修	授業時数	2単位
-----	-----	-----	-------	-------	------	------	------	------	-----

使用教科書	高等学校情報Ⅰ(数研出版)
副教材等	新課程高等学校情報Ⅰサポートノート(数研出版)

学習目標	<p>(1)効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。</p> <p>(2)様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>(3)情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p>
授業の進め方、学習方法	<p>各章ごとに教科書とサポートノートを用いて基本となる考え方や方法を概観しながら、手作業による実習、そしてコンピュータを用いた実習でそれらを体得し、理解を深めていく。実習には個人で行うものの他に、グループで協力し合って行うものも含まれている。</p> <p>レポート作成などパフォーマンス課題を各学期ごとに実施する。</p>

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評価基準
1学期	第1編 情報社会の問題解決 第1章 情報とメディア 第2章 情報社会における法とセキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> ・情報や情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付ける。 ・問題解決の目的や状況に応じて、情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考える。 ・情報社会でよりよく生きるために、情報に関する法規・制度や情報社会における個人の責任、情報モラルにもとづいた行動について理解する。 ・著作権などの知的財産権の保護の必要性和ともに、そのために必要な法規及び個人の責任について理解する。 ・情報社会の問題点をふまえ、情報セキュリティの重要性を理解させるとともに、ユーザ認証やアクセス制御などの技術、セキュリティ対策の方法を理解する。 ・情報社会において個人の果たす役割や責任について考える。 	<p>【知識・技能】 情報や情報メディアの特性をふまえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 情報に関する法規や制度およびマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的にとらえ、考察している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。また、自己調整しながら、解決する過程や解決案をみずから評価し改善しようとしている。</p>
	第3章 情報技術が社会に及ぼす影響 第2編 コミュニケーションと情報デザイン 第3章 情報デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・人工知能やデジタルトランスフォーメーションなど、発展する情報技術と情報技術がもたらす社会の変化や経済の効率化について学習する。 ・情報格差、インターネット依存症、インターネット上のトラブルなどを学び、情報技術の適切な活用について理解する。 ・情報や情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考える。 ・情報デザインが人や社会に果たしている役割を学習する。 ・情報を伝える目的や受け手の状況をふまえた適切かつ効果的な情報デザインを考えるとともに、それらを表現し、評価し改善する。 	<p>【知識・技能】 情報技術が人や社会にはたす役割と及ぼす影響について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察している。</p> <p>・コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考えている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報モラルに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。</p> <p>・情報デザインを効果的に活用し、情報社会に主体的に参画しようとしている。</p>
2学期	第2編 コミュニケーションと情報デザイン 第1章 情報のデジタル表現 第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴 第4章 プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・情報のデジタル化の基礎的な知識と技術として、ビットの概念、2進法による表現、文字、音、画像、動画のデジタル化の原理と表現方法を理解する。 ・デジタル情報のデータ圧縮の原理と具体例について学習する。 ・情報伝達のメディアの性質を科学的に理解させるとともに、情報をわかりやすく表現し効果的に伝達するために、適切な情報機器やメディアを選択し利用する方法を身に付ける。 ・コミュニケーション手段の1つとして用いられているプレゼンテーションの基本、重要性、手法を理解させるとともに、情報デザインの考え方や方法を表現する技能を身に付ける。 	<p>【知識・技能】 メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について、その変遷もふまえて科学的に理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・コンピュータで扱われる情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考察している。</p> <p>・メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的にとらえ、それらを目的や状況に応じて適切に選択している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 情報と情報技術を活用して効果的なコミュニケーションを行おうとしている。</p>
	第3編 コンピュータとプログラミング 第1章 コンピュータのしくみ 第2章 プログラミング 第3章 モデル化とシミュレーション	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータや外部装置の基本的なしくみや特徴を学習する。 ・OSやアプリケーションプログラムなどのソフトウェアの基本的な機能を理解する。 ・コンピュータで扱われる数や情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考える。 ・問題の解法をアルゴリズムを用いて表現する方法を身に付ける。 ・アルゴリズムを考え、プログラミングを行う過程において、それらを評価し改善していく力を身に付ける。 ・目的に応じたモデル化やシミュレーションを行い、その結果をふまえて問題を適切に解決する方法を考える。 	<p>【知識・技能】 ・アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について理解し、技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータや情報通信ネットワークを活用するとともに、その過程を評価し改善している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 身近な問題を解決するプログラムやシミュレーションの結果をもとに、試行錯誤しながら評価し改善しようとするなどを通して、情報社会に主体的に参画しようとしている。</p>
3学期	第4編 情報通信ネットワークとデータの活用 第1章 ネットワークのしくみ 第2章 データベース 第3章 データの分析	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信ネットワークの基本的な方式やプロトコルの役割について学習する。 ・通信の信頼性や情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解する。 ・目的や状況に応じて、情報通信ネットワークの方式やプロトコルを選択したり、情報セキュリティを確保したりする方法について考える。 ・データベースの概念及びデータベース管理システムの機能やデータの損失を防ぐしくみについて学習する。 ・データを表現・蓄積するためのデータの形式に関する知識と、データの収集、整理、分析する方法について理解する。 ・データの収集、整理、分析の方法や、その結果を表す方法を適切に選択するとともに、それらについて評価し改善する力を身に付ける。 	<p>【知識・技能】 ・情報通信ネットワークのしくみや構成要素、プロトコルの役割および情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解している。</p> <p>・データを蓄積、管理、提供する方法、情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供するしくみと特徴について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 目的や状況に応じて、情報通信ネットワークにおける必要な構成要素を選択するとともに、情報セキュリティを確保する方法について考えている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。</p> <p>・データを多面的に精査し、情報システムが提供するサービスを効果的に活用しようとしている。</p> <p>・情報セキュリティなどに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。</p>

成績評価方法	授業態度 ・ 発問評価 ・ 定期考査 ・ パフォーマンス課題等をもとに評価の観点にもとづいて総合的に評価する。
--------	---

教 科	探 究	科 目	探 究	学年・類型	2年特色類型	履修形態	全員履修	授業時数	3単位
使用教科書	無し								
副教材等	課題研究メソッド(啓林館)等								

学習目標	アカデミックな内容を論理的に伝えるプレゼンテーションの技法を身につける。 検証可能な問いを立てることができるようになる。仮説の検証のために適切な手法を選択できるようになる。 結果について論理的な分析ができるようになる。
授業の進め方,学習方法	A)数回(グループ・個人)のプレゼンテーションを準備しながら、アカデミックな英語プレゼンテーションに必要な要素を理解し、身につけていく。 B)3～5名のグループで、それぞれの班ごとにテーマを見つけ、課題研究に取り組む。 授業ごとの目標や、やるべきことをメンバーで共有しながら進める。 必要に応じて研究者や専門家の指導を受ける。 定期的に外部助言者の指摘は受けるが、基本的に自分たちで実験や調査の計画を立てて実施する。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評価規準
1学期	構想発表会 A)Current Social Problems B)研究計画 予備実験 先行研究調査 実験・調査活動	これから行う課題研究の計画について発表し、助言指導を受ける。 現在社会が抱える様々な課題について賛否を論理的に示し、その解決策を、具体例を挙げつつ発表する。 学期末にインタビューテストを行う。 予備実験や先行研究の調査等をすすめて仮説を精緻化する。 テーマについて必要な基礎学習や情報収集を行う。	【知識・技能】 検証可能な仮説を立てることができるか。 先行研究を理解しているか。 【思考・判断・表現】 検証可能な実験デザインができているか。 論理的かつ独創性のある取組ができているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 適切に情報を取捨選択できているか。 研究に自ら精力的に取り組んでいるか。
2学期	中間発表会 A)Graphs and Numbers B)外部での発表	研究の構想と見通し、さらには進捗状況を報告し、助言指導を受ける。 各種外部成果発表会への出展に向けて「グラフ・発表要旨・ポスターの作成方法」「研究手順をわかりやすく説明する方法」を演習形式で学習する。 学期末に個人プレゼンテーションを行う。 外部学会、コンテスト等での発表に向けて、研究を進める。 各種発表会に応じてポスターやプレゼンテーションの作成を行う。 ・外部講師「論理的な文章の書き方」 ・外部講師「科学的に因果関係を知る方法」	
3学期	A)3MT B)成果発表会に向けて 探究成果発表会	1年間のまとめとして3MTを実施する。 探究成果発表会に向けて、成果をポスターとプレゼンテーションにまとめる。 ・外部講師「自然科学の伝え方」 研究の成果について発表し、助言指導を受ける。	

成績評価方法	A)インタビュー・プレゼンテーションのパフォーマンスを観点別に評価する。 B)日々の振り返りと発表内容を観点別に評価する。探究内容はルーブリックを用いて評価する。
--------	--